

授業カリキュラムと実践例

2 年間授業計画と授業形態

年間計画

	1学期	授業時間
1	授業を始めるにあたって	1
2	知覚と意味、そして情報	1.5
3	3つの情報概念・人の意識	1.5
4	WWWの利用	2
5	利用者を特定する仕組み	2
6	メディア	1
7	電子メールの利用	1
8	URLと電子メールアドレス	2
9	アナログとデジタル	3
	計	15

	2学期	授業時間
10	知的財産権	4
11	コミュニケーションの影響	1
12	現実-像と客観性	1
13	総合実習解説	1
14	HTML	2
15	実習課題作成	6
16	相互評価	3
17	成績発表1回目	1
	計	19

	3学期	授業時間
18	実習課題再作成	3
19	相互再評価	3
20	情報化の進展と社会への影響	2.5
21	生物と機械	1.5
22	心的システム・社会システム	1
23	社会システムの進化	1
24	まとめと成績発表	1
	計	13

着色してあるセクションが
『生命と機械をつなぐ授業』

1学期

	タイトル	主 な 内 容	授業 時間
1	授業を始めるにあたって	中学校までの授業内容と授業イメージに対する アンケートの実施、年間の授業計画について	1
2	知覚と意味、そして情報	知覚しているものは客観的か？意味は客観的か？ 情報」とは何か？ 情報の定義」	1.5
3	3つの情報概念 ・人の意識	3つの情報概念、主観性と客観性の正しい関係、無意識と意識の関係	1.5
4	WWWの利用	Webページの閲覧方法、サーチエンジンについて、利用上の注意	2
5	利用者を特定する仕組み	認証方法について、パスワードの作り方	2
6	メディア	コミュニケーションとその成立条件、伝播メディアと成果メディア、機能的分化社会	1
7	電子メールの利用	メディアとしての特徴と利点について、利用上のマナー	1
8	URLと電子メールアドレス	ドメイン名の構造、ドメイン名の管理、電子メールアドレスの構造、URLの構造	2
9	アナログとデジタル	アナログデータとデジタルデータの違い、アナログデータのデジタル化、二進数と十進数、IPアドレスとDNS、出力デバイスに応じたデジタル化、デジタルデータの利点と問題点	3

2学期

	タイトル	主 な 内 容	授業 時間
10	知的財産権	知的財産権の種類と範囲、知的財産権の正しい利用方法	4
11	コミュニケーションの影響	コミュニケーションから受ける現実(拘束/制約)、 コミュニケーションのタイプとその影響力の違い	1
12	現実-像と客観性	心の理論、コミュニケーションを成立させているもの、現実-像と疑似客観世界	1
13	総合実習解説	何かを紹介するWebページを作成。目標はWebページ中身ではなく見栄えの良いページ	1
14	HTML	HTMLの基本構造、主なHTMLタグとHTMLファイルの変更方法、 HTMLファイル作成用ソフトウェアの紹介、課題の提出場所について	2
15	実習課題作成	Webページのデザイン、作成	6
16	相互評価	論理的にWebページのデザインを評価する	3
17	成績発表1回目	成績発表1回目	1

3学期

	3学期	主 な 内 容	授業 時間
18	実習課題再作成	作品につけられた評価をもとに作品を再作成する	3
19	相互再評価	論理的にWebページのデザインを評価する	3
20	情報化の進展と社会への影響	掲示板を利用した仮想ディベート	2.5
21	生物と機械	生物と機械の違い、ウンベルト・マトゥラーナの実験、閉鎖系システムと構造的カップリング、オートポイエーシス、オートポイエティック・システムと生物の進化	1.5
22	心的システム・社会システム	心的システム、社会情報にするための観察者の必要性、生物の階層構造と観察者から見たシステムの解釈、社会のシステム、階層的自律コミュニケーション・システム	1
23	社会システムの進化	社会システムの進化(プロパゲーション)、超-社会システム、デジタル・デバイド、より良い情報社会を作るために	1
24	まとめと成績発表	総合実習結果発表、ディベート結果発表、授業アンケート	1

授業の形態

1-6 情報による意味内容の伝達は可能か？

ここまですべてをまとめてみると…

1. 生物の知覚は主観的の構築されている。
2. 情報によって構築される意味は主観的に構築されている



全ての生物は客観的と言えるものは何一つ認識することはできない。
従って、我々が客観世界と思っているものは擬似的なものである。

主観的に構築されるものは伝達しない。つまり、如何なる方法を使っても
意味内容の伝達は不可能である。よって、人々は意味内容を共有できず、
決して互いを理解し合うことはできない！

…だが

6 情報による意味内容の伝達は可能か？

今まで見てきたことを整理してみましょう。

1. 生物の知覚は[18]]に構築されている。

生物が知覚していることはその生物の主観的なものであり、他の生物に当てはまることではありません。

2. 情報によって構築される意味は[19]]に構築されている。

生命情報でも社会情報でも、情報によって構築される意味は主観的なものです。

この結論から、私たちは知ったり理解することができる全ては主観的であり、客観的と呼べるものは何一つ認識することが出来ないことになります。仮に客観的な世界が生物の外側にあったとしても、生物はそのことを主観的にしか認識できないのです。このことは人間においても当てはまります。客観世界があったとしてもその存在を客観的に認識することは絶対にできず、その存在は推測の域を越えることはできないのです。主観性を抜きに、客観性を語ることはできないのです。私たちが客観的であると考えている全ての実在は、ただそれを客観的であると私たちが主観的に判断しているだけなのです。私たちが客観世界だと思っている(考えている)ものは、主観的に認識された[20]]でしかありません。

社会情報によって構築される意味内容は主観的なもので、同じ社会情報を受け取ったとしても、構築される意味内容は当然異なります。つまり、意味内容が正確に伝達されることはありません。そもそも意味内容に限らず如何なるものでも、「主観的に構築されるものが伝達する」ということは絶対にありえません。従って、情報(如何なる方法)によっても意味内容の伝達は[21]]なのです。この結論より、「人々は互いに意味内容を共有することができず、決して互いを理解しあうことは[22]]ことになります。

スライド

プリント

終わり